


SDGs トリシマの具体的な取組み

トリシマの事業がどんなSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）につながっているか、具体的にご紹介します。


2 飢餓をゼロに



飢餓をゼロに

飢えをなくし、だれもが栄養のある食料を十分に手に入れられるよう、持続可能な農業を進めよう

ポンプを通じて
私たちがどのように
貢献できるのかを知ろう！



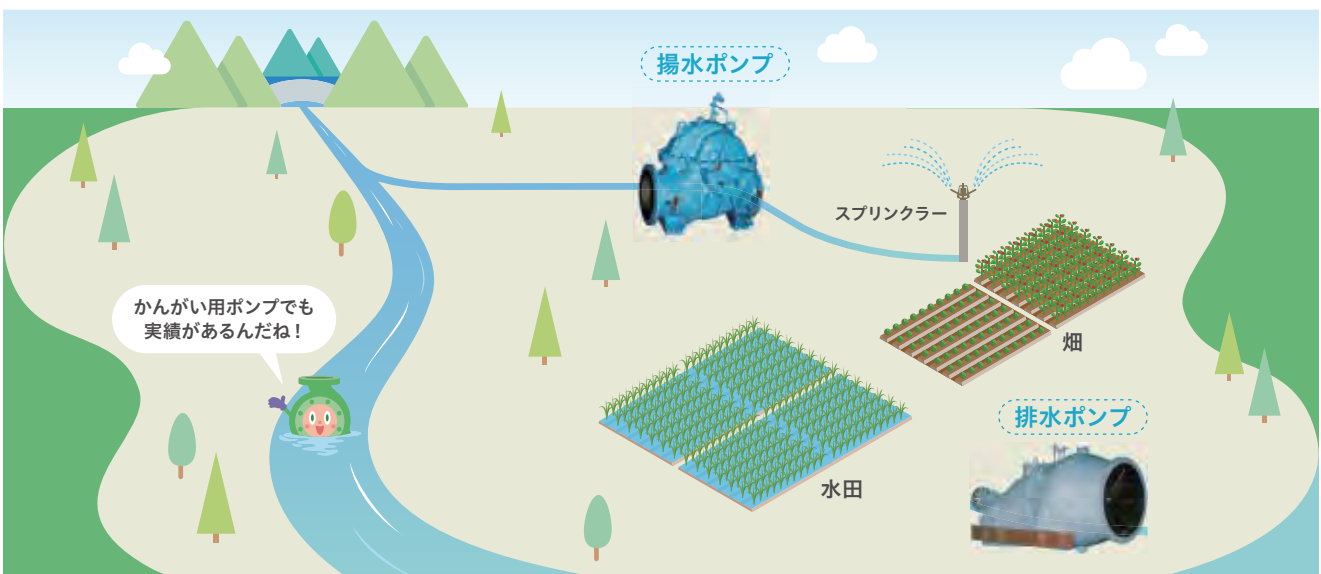
今の日本では「飢餓」といってもあまり実感しにくいかもしれませんが、世界では、「今日食べるものがない」「明日以降も食べられるかわからない」という状態にある人が、約8億人もいます。

とくに状況が深刻なのがアフリカ、飢餓人口が多いのがアジアと言われており、犠牲になる多くはまだ体が弱い子どもたちです。

飢餓の原因は干ばつや洪水などの自然災害、紛争、貧困などさまざまですが、これまでも、今も、飢餓に苦しむ人々に対しては国際社会ができる限りの援助をしています。しかし一番大切なのは、**自分たちで自分たちの食料を安定的に確保できる**ようになること。飢餓の抜本的な解決に向けて打ち出されたのが、目標2番です。

トリシマは「水」と「エネルギー」の分野で貢献できることが多く、「飢餓」とは直接つながらないように思うかもしれませんが、でも、「食料をつくるためには多くの「水」が必要です。たとえば、1kgのトウモロコシを生産するのに必要な水は約1,800リットル。また、牛はこうした穀物を大量に消費しながら育つため、牛肉1kgを生産するには、その約20,000倍もの水がいると言われています。（環境省HPより）

かんがいとは、そんな大切な農作物を安定的、効率的に育てるために、河川や湖などから水を引き、田畑へ給水したり排水したりするシステム。トリシマは、このかんがい用ポンプにおいても数多くの実績があります。



創業当時の大正時代から、農業用ポンプで社会に貢献！

トリシマが創業した1919年は大正時代。日本が近代化に向かい、農業でも機械化が進んでいる頃でした。創業当初こそ鉱山用ポンプをつくっていたトリシマですが、社会のニーズに応えるべく1922年には農業用ポンプの開発に着手、食糧増産に貢献していきました。

そう、100年に渡ってトリシマは、農業用ポンプのエキスパート。そして今、世界人口の増加に伴い食糧不足が懸念されるなか、海外の農地開拓プロジェクトへも数多くのポンプを納入しています。

実り豊かな
農業の実現に、
ポンプで
貢献するよ！

